

「あいち水循環再生基本構想」(案)の概要

1 構想策定の趣旨

急激な産業の発展や都市化の進展、森林の荒廃、農地の減少等により水循環が変化したことで、人間社会の営みと環境保全に果たす水の機能とのアンバランスが生ずるとともに、人と水とのかかわりが希薄化し、これにより、都市とその周辺の河川や海域の水質汚濁、生物多様性の喪失、水辺の減少等の課題が顕在化している。

このため、流域を中心とした一連の水の流れの過程において、人間社会の営みと環境の保全に果たす水循環の4つの機能が適切なバランスのもとに共に確保されている健全な水循環を再生することを目的に、構想を策定する。

水循環の機能
 水質浄化
 水量の確保
 多様な生態系の維持
 水辺の保全

2 水循環の課題

水質

都市とその周辺の中小河川、湖沼及び海域で環境基準達成率が低い。

水量

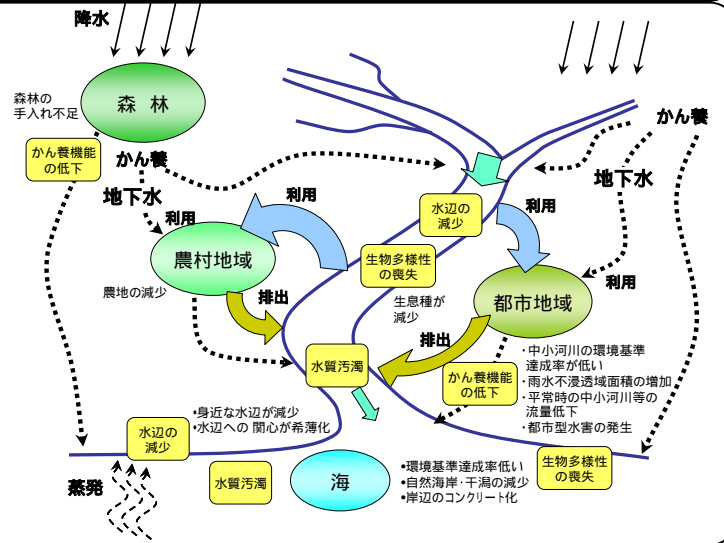
森林の手入れ不足や農地の減少、都市域の宅地や道路などの雨水不浸透域面積の増加などにより地下水かん養機能の低下したことで、平常時には都市域の中小河川等の流量が低下するとともに、豪雨時には都市型水害が発生する。

生態系

川や干潟などの生物多様性が喪失している。

水辺

自然海岸の減少や岸辺のコンクリート化などにより身近な水辺が減少したことで、人と水とがふれあう機会が減少している。



3 構想の目標とめざす姿

目標： **人と水との豊かなかかわりの回復・創造**

めざす姿：

安心して利用できるきれいな水

生活用水、工業用水、農業用水などの利用に適したきれいな水を確保する。全地点で水質環境基準を達成する。

暮らしを支えて流れる水

森林や農地、都市での地下水のかん養能力を向上する。湧水や水害が少ない暮らしを確保する。

水が育む多様な生態系

水辺の生物の種類、生息数を増やす。地域特有の希少種の生息環境を保全する。

人と水とがふれあう水辺

水遊びや散歩で楽しむ水辺を整備する。川や海などの保全活動に参加する機会を増やす。

4 水循環再生の取組

1 取組の方向性

場の視点

- これまで、水に関する課題について、工場に対する排水規制など限られた場所や、環境、治水、利水などといった分野ごとの目的に応じた個別的な取組を実施。「場の視点」
- 水循環を考慮した取組が不十分であったことから、水に関する課題の解決につながらない。

視点の転換

流れの視点

- 今後は、水循環の機能を流域の一連の水の流れとの関連で捉え、流域全体で総合的な取組を実施することにより、点での取組を、線・面での取組とする。「流れの視点」
- 総合的な視点に立った取組により、水循環を再生し、水に関する課題を解決する。

2 具体的な取組

水循環の機能を軸として4つのめざす姿の実現に向けた取組を縦系とし、森林の整備・保全や海づくりなどのテーマで連携した取組を横系として、固く織り成すことにより、効率的・効果的で持続性のある取組とする。また、取組を活性化させるため、環境学習の推進や情報の共有化などを実施する。

水循環の機能で連携

流域の全体にわたって、水循環の機能を再生させる取組を実施。

- 「きれいな水」のための取組
(下水道の整備等の生活排水、農地・畜産等の非特定発生源対策など)
- 「暮らしを支える水」のための取組
(森林・農地の保全・管理、雨水浸透施設・透水性舗装等の推進など)
- 「多様な生態系」のための取組
(多自然型川づくり等の推進、干潟・浅場の保全など)
- 「ふれあう水辺」のための取組
(身近な水辺の親水性の向上、水文化の保存・伝承など)

テーマで連携

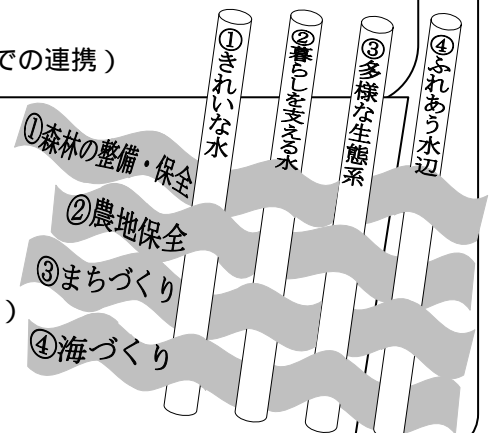
水循環の再生につながる特定テーマごとに関連する様々な対策を連携させることにより、相乗効果や波及効果を生かして総合的な取組を実施。

- 森林の整備・保全での取組
(県産材の利用促進など林業・木材産業の活性化を軸とした連携)
- 農地保全での取組
(耕作放棄地の解消など農業の活性化を軸とした連携)
- まちづくりでの取組
(透水性舗装や緑化の推進などまちづくりの計画時から連携)
- 海づくりでの取組
(自然海岸の保全など海の保全・再生での連携)

活性化のための取組

連携した取組全体をより活性化し効果的に進める。

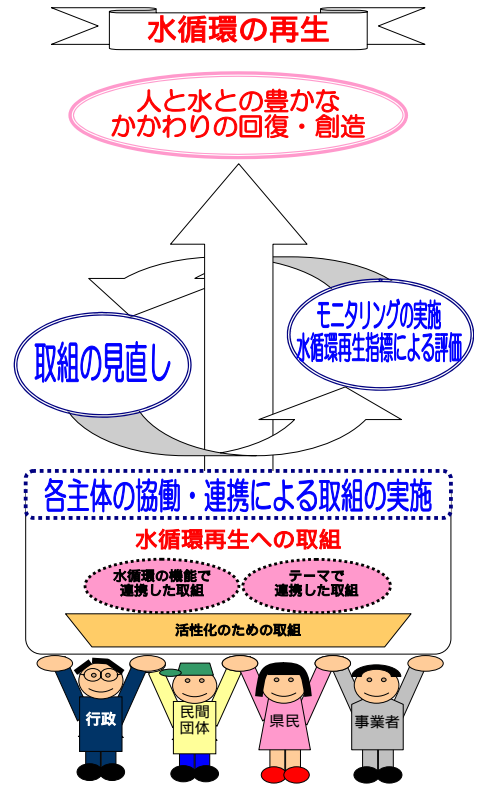
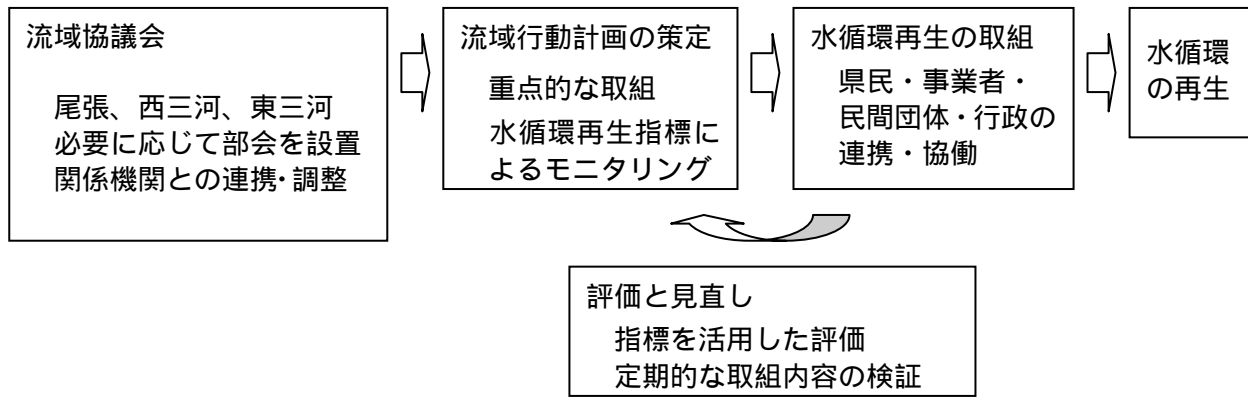
- 環境学習の推進(水や自然とのふれあいを通じた、水、森林、農地、海などに関する環境学習)
- 情報の共有化(川などのモニタリング、水辺・湧水等のマップの作成等の情報の集積、発信、共有化)
- 県民・事業者・民間団体・行政の協働(森林の間伐、水辺の緑化などでの協働)
- 取組の見直し(取組内容を定期的に見直し、先導的施策を取り入れていく。)



5 取組の進め方

流域協議会を設置し、行動計画を策定して、重点的な取組を中心に、県民などとの協働により水循環再生の取組を推進する。

1 協議会の設置



水循環再生指標の作成

水循環の4つの機能に即して、川や海などの生きた姿を把握するための総合的な指標を作成する。
協働して指標をモニタリングすることにより、県民の理解や参加意欲を高めるとともに、水循環再生の評価や取組の見直しに活用する。

2 流域ごとの重点的な取組

	尾張地域 【象徴的な河川】 木曾川、庄内川、日光川、五条川	西三河地域 【象徴的な河川】 矢作川	東三河地域 【象徴的な河川】 豊川
【特徴】	都市地域の占める割合が多く、県内の人口の約7割がこの地域に集中している。 森林や農地の面積が減少している。 閉鎖性海域である伊勢湾を有する。	産業、農業とも盛んで、人口が増加している一方で、上流域では過疎化が進んでいる。 矢作川方式といわれる流域管理の先進地域である。 閉鎖性海域である三河湾を有する。	森林の占める割合が多い。 豊川の集水面積は小さい。 他地域に比べ人口が少なく、上流域では過疎化が進んでいる。 閉鎖性海域である三河湾を有する。 畑作や畜産業が盛んである。
【主な課題】	都市域における中小河川の水質汚濁。 宅地や道路など雨水不浸透面積の増加による地下水かん養機能の低下。 都市型水害の発生の可能性が高い。 伊勢湾における水質汚濁。 赤潮、苦潮及び貧酸素水塊の発生。 人と水とのかかわりの希薄化。	森林の手入れ不足による水源かん養機能の低下。 生活排水などの処理が不十分なことによる水質汚濁。 三河湾における水質汚濁。 赤潮、苦潮及び貧酸素水塊の発生。 アユの減少 人と水とのかかわりの希薄化。	森林の手入れ不足による水源かん養機能の低下。 渇水の頻度が高い。 干潟・浅場の減少。 降雨時における汚濁負荷の排出。 三河湾における水質汚濁。 赤潮、苦潮及び貧酸素水塊の発生。 アサリの減少
【重点的な取組】	まちづくりの中で地下水かん養機能の向上や身近な水辺の整備を図る取組をする。 地下水涵養機能の再生での連携 多自然型川づくりを中心とした連携 伊勢湾の水質浄化での連携 【具体例】 	森林から海まで一体感をもって連携した取組をする。 流域一体の水質浄化での連携 森林の整備・保全 【具体例】 	森づくりと海づくりを中心に据え、効率的で適切な水利用を考慮して取組む。 降雨時の汚濁負荷削減での連携 干潟・浅場の保全・再生。 森林の整備・保全 【具体例】